

科目・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
探究数学 I	6	文理&生命	A~E	大西・村上・小山・小埜・橋岡
目 標	学習指導要領では、数学 I (4 単位)、数学 A (2 単位)だが、3 期目のSSHの指定を受け、学校設定科目として「探究数学 I (6 単位)」を設定した。 目的；①系統立てた学習 ②理科(物理,化学)との関連			
大切に育てたいもの	意欲・自主性	態度・処理	見方・考え方	知識・理解
	数学は最初にポイントがくることを意識させ、準備をした上で物事に取りかかるという姿勢を育てたい。	数学を学習する習慣をつける、また「聞けば分かる」で終わらず、必ず手を動かして計算するという態度を育てたい。	覚えておく事項か、その場で考える部分かを区別した上で説明し、また生徒にもその区別ができるようにさせたい。	抽象思考＝言語思考なので、「言葉を大切に」し、不完全な部分は、図・表・グラフを利用し、理解を深めていきたい。

探求数学 I α (3 時間) [6 単位を α 3 時間、 β 3 時間に分けて進める]		探求数学 I β (3 時間)
中学入学生、選抜、生命	高校入学生	
<p>数学 I 第 1 章「数と式」 p 41~44</p> <p>絶対値を含む方程式・不等式</p> <p>数学 II 第 5 章第 1 節「指数・対数」 p 146~151, 158~161, 167~169</p> <p>* 指数の拡張、対数の性質、常用対数を中心に</p>	<p>数学 I 第 1 章「数と式」 p 6~</p> <p>* 土セミや夏期補習を利用して追いつく</p>	<p>数学 I 第 2 章「2 次関数」 第 1 節第 2 節 p 66~87</p>
<p>数学 I 第 1 章第 4 節「集合と命題」</p> <p>数学 A 第 3 章「整数の性質」 第 1 節</p> <p>数学 A 第 3 章「整数の性質」 第 2 節第 3 節</p> <p>数学 I 第 3 章「図形と計量」 第 1 節三角比</p> <p>第 2 節三角形への応用 p138~155</p> <p>数学 A 第 2 章「図形の性質」 * 「図形と計量」第 3 節「三角形への応用」と「図形の性質」第 1 節「平面図形」の相互理解を図る。 “三角形の辺の比、外心・内心・重心、円に内接する四角形”を 2 学期に、 (*)</p>	<p>追いついた後は左記と同じ</p> <p>2 学期中間テスト後からはクラス毎での授業に</p>	<p>第 2 節第 3 節 p 88~115 章末問題、演習</p> <p>数学 A 第 1 章「場合の数と確率」 第 1 節場合の数 第 2 節確率~34 第 2 節確率 p35~52</p>
<p>数学 A 第 2 章「図形の性質」 (*) 以外</p> <p>数学 II 第 4 章第 1 節 「三角関数」 p108~128 * 度数法から弧度法へとつなげる * 加法定理は高 2</p> <p>数学 II 第 5 章第 1 節「指数関数, 対数関数」</p>		<p>数学 I 第 4 章「データの分析」 p 160~167</p> <p>数学 I 第 4 章「データの分析」 p 168~177</p> <p>数学 II 第 2 章「複素数と方程式」</p>
評価の方法	定期テスト(参考書テストもある)、小テスト、提出物	
学習活動の特徴	講義、演習	
授業の形態	クラス単位(ABC組の探究数学 I α のみ、中学入学生と高校入学生に分かれる)	
使用教科書	高等学校 数学 I 数学 A 数学 II (いずれも数研出版)	
使用副教材	4 プロセス 数学 I + A、チャート式解法と演習数学 I + A (ともに数研出版)	
用意するもの	教科書、ノート、4 プロセス	
備考	定期テスト時、参考書テストあり。名称；探究数学 I γ	